『言語教育評価研究』第2号（2011）pp. 2-14

言語教育評価研究
ASSESSMENT AND EVALUATION IN LANGUAGE EDUCATION

研究論文

外国語としての日本語（JFL）の語用論的能力に関わる基礎的言語知識

中国語を母語とする日本語学習者を例に

木山　幸子*　　玉岡　賀津雄†　　趙　萍‡

外国語としての日本語（JFL）の語用論的能力に影響する基礎的言語知識の影響を探るために，中国の大学で日本語を専攻する224名の学生に対して各種のテストを実施した。文法知識と語彙知識が語用論的能力に影響するというモデルを構造方程式モデリング（SEM）によって解析した結果，語用論的能力に有意に影響するのは語彙知識であることが示された。さらに重回帰分析で検討した結果，語彙知識の中でも動詞と名詞の知識が語用論的能力に有意に影響していることが示された。実際のコミュニケーションの場における複雑なやりとりに適切に対応するためには，豊かな語彙知識を培う必要があることがうかがわれる。

キーワード：JFLの語用論的能力，発話行為理論，構造方程式モデリング（SEM），
中国語を母語とする日本語学習者，語彙知識

対人コミュニケーションにおいて発せられた言葉にどのような意図があるかを文化的慣習や規範に照らし合わせて推論する能力を，語用論的能力（pragmatic competence）という（e.g., Holtgraves, 2002；Searle, 1975；清水, 2009）。日常のやりとりでは，話し手が発した言葉の字義通りの意味とその発話の意図は，必ずしも一致しない。Austin（1962）やそれを発展させたSearle（1969）の発話行為理論（speech act theory）は，このギャップを充たす推論プロセスを説明する枠組みを提案している。彼らは，実際の言語運用は何らかの行為をするものとみなし，それが成功裏に遂行されるための要件として適切性条件（felicity conditions）[1]が満たされる必要があると説く。話し手は，この適切性条件に基づいて聞き手側の推論に頼ることによって，間接的に発話行為を遂行することができると考えられる。

それでは，外国語環境にある日本語（以下，JFL）の学習者は，こうした語用論的能力をどのように習得するのだろうか。外国語および第二言語の語用論的能力には学習者の母語における語用論的慣習が転移すること（pragmatic transfer）は，様々な発話行為において示されている（e.g., Al-Issa, 2003は断り；Beebe & Takahashi, 1989は不同意；Blum-Kulka, House, & Kasper, 1989は依頼と謝罪；Yu, 2004はほめに対する返答）。そしてこの転移は，目標言語が話されている環境にある学習者に比べ，外国語環

* 名古屋大学大学院国際言語文化研究科，
E-mail: ZUA04776@nifty.com
† 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
‡ 麗澤大学言語研究センター

1　適切性条件は，命題内容（propositional content），準備（preparatory），誠実性（sincerity）及び本質（essential）の4条件から成る。

境にある学習者に顕著であることが報告されている（e.g., Matsumura, 2001；Taguchi, 2008）。

例えば，英語を母語とするJFL学習者の日本語における断り発話を検討した生駒，志村（1993）は，(1) 代案をあまり提示せず，(2) 友達に「結構です」を多用し，(3) 中途終了文を使わず直接的な断りを多用するという特徴を報告している。外国語である日本語の文化的慣習に関する知識が不十分で，母語の文化的慣習がそのまま使われる傾向を示す結果といえよう。また，ラオハブラナキット（1997）は，東南アジア圏の日本語学習者について，(1) 相手に対する配慮を示す終助詞の不足，(2)「うーん」等の断りの前触れとなるマーカーの不足を報告している。日本語で上手に断るためには，断りの意図を和らげる種々の表現（hedged expressions）を用いたり，代案を提示するなどの適切な配慮が求められるが，JFL学習者にとっては，これらの方略を発話に効果的に取り入れるのは難しいようである。

外国語環境にある学習者が語用論的能力を習得し難い理由には，(1) 目標言語の文化的慣習に関する情報が乏しいこと，(2) 学習者の母語の文化的慣習が目標言語においてもそのまま使われやすいこと，の2つがあると考えられる。JFL学習者がこれらの不利な条件を補い，複雑な表現を含む発話を手がかりに語用論上の推論を行うためには，それを支える十分な基礎的言語能力が要求されるであろう。そこで本研究では，中国で日本語を専攻する大学生を対象とした総合的な日本語テストを実施し，JFLの語用論的能力に対する文法知識と語彙知識の影響関係を，構造方程式モデリング（SEM）によって解析する。

1. 方法

語用論的能力を問う多肢選択によるテストを作成し，これを語彙と文法の知識を問う多肢選択テスト（宮岡，酒井，玉岡，2006；宮岡，玉岡，酒井，2011）と併せて実施した。データの分析にはSPSS社のPASW Statistics 18.0およびAmos 18.0の日本語版を用いた。

1. 1. 被調査者

2008年9月に，中国の西安外国語大学で日本語を専攻する3年及び4年次の大学生にテストを実施し，224（各学年112）の有効回答を得た。所要時間は約120分であった。被調査者の年齢は，18歳から26歳までの範囲で，平均年齢は21歳6カ月（標準偏差は1歳3カ月）であった[2]。男女比は女性80.4%，男性19.6%であった。この中に日本在住経験のある被調査者はいなかった。

1. 2. JFLの語用論的能力を測定するテストの作成

外国語／第二言語の語用論的能力の多肢選択による測定方法は，英語ではすでに検討されている（e.g., Boxer & Cohen, 2004；Cohen, 2008；Hinkel, 1997；Matsumura, 2003）が，日本語についてはほとんどなされていない（例外にYamashita, 1996がある）。本研究では，これらの先行研究と同様に，発話行為理論の枠組みを用いて日本語の多肢選択による語用論的能力を測定するテストを作成した。Searle & Vanderveken（1985）の107種の発話行為リストを参照して，話し手が所定の行為を行う義務を負う「自己拘束型（commissive）」（例えば，約束，保証），相手に所定の行為を行わせる「相手拘束型（directive）」（例えば，依頼，禁止），および相手に自分の心的態度を伝達する「態度表明型（expressive）」（例えば，感謝，称賛）[3]の3つの型[4]から代表的な発話行為を選択した。これらの各発話行為をめぐって日常的に遭遇しやすいと思われる状況下での二者間のやりとりを22項目作成した。全ての項目の一覧は表1に示した通りである。

例えば，「3. 受諾（accept）」に関するやりとりでは，「今度の会議であなたに司会をお願いしたいん

2　中国では，飛び級で進学する場合があるため，3・4年次になっても20歳に満たない学生が含まれる。

3　これら発話行為理論における用語の日本語訳は，山梨（1986）にならった。

4　Searleが提案する発話行為には5種類の型があるが，本研究では話し手と聞き手の二者間のコミュニケーションを検討するため，単に話し手が何らかの情報を宣言するのみで必ずしも聞き手の積極的な反応を要しない「陳述表示型（assertive）」（例えば陳述）と「宣告命名型（declarative）」（例えば任命）の2つは除外した。

表1. 語用論的能力のテストに用いた発話行為一覧

発話行為の型		発話行為
自己拘束 (commissive)	1	約束 (promise)
	2	侵害 (threaten)
	3	受諾 (accept)
	4	断り (refuse)
	5	申し出 (offer)
	6	保証 (guarantee)
	7	契約 (contract)
相手拘束 (directive)	8	依頼 (request)
	9	許可 (permit)
	10	命令 (command)
	11	助言 (advice)
	12	禁止 (forbid)
態度表明 (expressive)	13	慰め (condole)
	14	謝罪 (apologize)
	15	自慢 (boast)
	16	感謝 (thank)*
	17	抗議 (protest)
	18	不平 (complain)
	19	賛美 (praise)
	20	褒め (compliment)*
	21	挨拶 (greet)*
	22	遺憾 (deplore)

注：* のある行為は，日本語母語話者に実施した基準判定調査で最適回答が1つにならなかったため使用しなかった。

ですけど，いかがでしょうか。あなたがやってくださるといつも上手くいくので，皆あなたにやってもらいたいって言ってるんですよ。」という相手の先行発話の後に，「あなたは，この依頼を引き受けようと思っています。何と言いますか。」という状況説明が提示される。この応答の選択肢として，①「うまくできるかどうか自信ありませんが，私でよければ，ぜひやらせていただきます。」，②「はい，お引き受けいたします。」，③「ああ，そんなこと簡単ですよ。いつでもやりますよ。」および④「はい，私はそういうの得意ですから，やって差し上げますよ。」の4つが提示され，被調査者はこれらのうち1つを選ぶ。この項目に関する母語話者による基準判定調査（後述）では，最も回答者が多かったのが①だったので，これを最適回答とみなす。その他のすべてのやりとりと選択肢は，付録に示してある。

語用論的能力は，理解と産出の両面から検討する必要がある（e.g., Holtgraves, 2002）。そこで本テストでは，奇数番号の項目で2発話から成るやりとり，偶数番号の項目で3発話から成るやりとりを作成し，当該の発話行為はいずれも2つ目の発話で実現されるように設定した。被調査者の回答は最後の発話の選択肢としてあるので，奇数番号では被調査者自身がその発話行為を行う側であり，偶数番号では被調査者はその発話行為を理解しているかを問うことになる。このテストを実際に被調査者に提示した際には，全22項目の順番をランダム化した。

また，語用論的能力の測定では，状況に応じた応答の相対的な適切性を問題としているため，文法テストや語彙テストのような絶対的な正答と誤答の区別は存在しない。そこで，広島大学に在学する56名（男性52.0%，女性48.0%，平均22歳2カ月，標準偏差1歳10ヶ月）の日本語母語話者を対象として基準判定調査を実施し，ここから得られた最多回答をJFL学習者の回答を採点する際の最適回答とみなした。全22項目のうち，基準判定調査で最多回答が1つにならなかった「感謝」，「褒め」および「挨拶」の3項目は除外し，19項目を分析に用いることにした。日本語母語話者の回答におけるこの19項目の信頼性係数（Cronbach's alpha）は，$\alpha = .62$ であった。この日本語母語話者の基準判定調査に従って，JFL学習者の回答においても，上述の3項目を除外した19項目を分析に用いる。

1. 3. 基礎的言語能力を測定する各種テスト

宮岡他（2006，2011）が開発した，文法知識と語彙知識を測定する四者択一によるテスト用いた。文法知識を測定するテスト（宮岡他，2006）は，3つの下位カテゴリで構成されている。まず「形態素変化（morphological inflection）」は，過去の受身の「たたかれた」といった1形態素内の活用・変化を問う問題である。2つ目の「局所依存（local dependency）」は，「バスに乗る」の助詞「に」を正しく選択できるといった隣接する単語間の関係の適切さを問う問題である。3つ目の「構造の複雑性（complex structure）」は，「どこへも～ない」のような1文内の離れた場所での呼応関係を問う問題である。それぞ

れ12問で，36点満点である。語彙知識を測定するテスト（宮岡他, 2011）は，提示された文中の空欄に適切な語を4つの選択肢から1つ選ぶ形式で，動詞，形容詞，名詞，機能語の4つの下位カテゴリから成る。各品詞12問で48点満点である。

1. 4. 各種テストの得点と信頼性

本研究で対象とした中国語を母語とする日本語学習者224名における各種のテストの平均，標準偏差および信頼性係数（Cronbach's alpha）は，表2に示した通りである。文法知識は平均27.87点で正答率が77.4%，語彙知識は平均32.10点で正答率が66.8%，語用論的能力は平均13.16点で正答率が69.2%であった。文法知識（α=.73）と語彙知識（α=.89）は高い信頼性が得られたのに比べて，語用論的能力（α=.55）は十分に高くはなかった。語用論的能力はもともと正答を完全に確定できない種類のテストであるため，信頼性は必ずしも高くならないと考えられる。

2. 結果

2. 1. 構造方程式モデリング(SEM)による解析結果

本研究で実施した3種類のテストを別個の潜在変数とし，表2に示した各テストの下位カテゴリの得点を観測変数として扱う。構造方程式モデリング（SEM）では，潜在変数間の相関関係や因果関係を想定した上で，そのモデル全体が当該のデータによく適合しているかどうかを検討することができる。本研究では，潜在変数間の影響関係を想定するにあたって，語用論的能力に対して，文法知識と語彙知識のそれぞれからパスを設定した。文法知識と語彙知識との間の関係については，どちらが先に習得されるかは判別し難いというL1習得の報告（Dixon & Marchman, 2007）に基づいて，両者の間には相関関係を仮定した。

このモデルをSEMにより解析した結果，まず，カイ検定の結果が有意ではなく［χ^2 (32)=18.293, p=.975］，モデルとデータがよく適合していた。また.95以上が求められる諸指標は，GFIが.984, AGFIが.972, CFIが1.000といずれも十分に高かった。RMSEAも.000と0に近い値をとっており，モデルとデータがよく適合していることを示している。このように，検定とすべての指標の結果から，本モデルとデータの適合度が良好であることが示された。

このモデルにおける潜在変数間の影響関係は，図1に示した通りである。中国人日本語学習者におけるJFL語用論的能力に対して，語彙知識の理解からの有意な因果関係（β=.69, p<.001）が認められた。それに対して文法知識からの因果関係（β=.07, *ns*）

表2. 各種テストの平均，標準偏差，信頼性係数（Cronbach's α）

各テストとその下位カテゴリ	満点	平均	標準偏差	最高点	最低点	信頼性係数（α）
文法知識	36	27.87	4.17	36	12	.73
形態素変化	12	9.55	1.75	12	2	-
局所依存	12	9.32	1.41	12	3	-
構造の複雑性	12	9.00	2.01	12	5	-
語彙知識	48	32.10	7.23	48	10	.89
動詞	12	8.27	2.41	12	1	-
形容詞	12	7.73	2.08	12	3	-
名詞	12	8.58	1.93	12	1	-
機能語	12	7.51	2.14	12	2	-
語用論的能力	19	13.16	2.99	19	3	.55
自己拘束型	7	5.16	1.25	7	1	-
相手拘束型	5	3.10	1.08	5	0	-
態度表明型	7	4.38	1.52	7	0	-

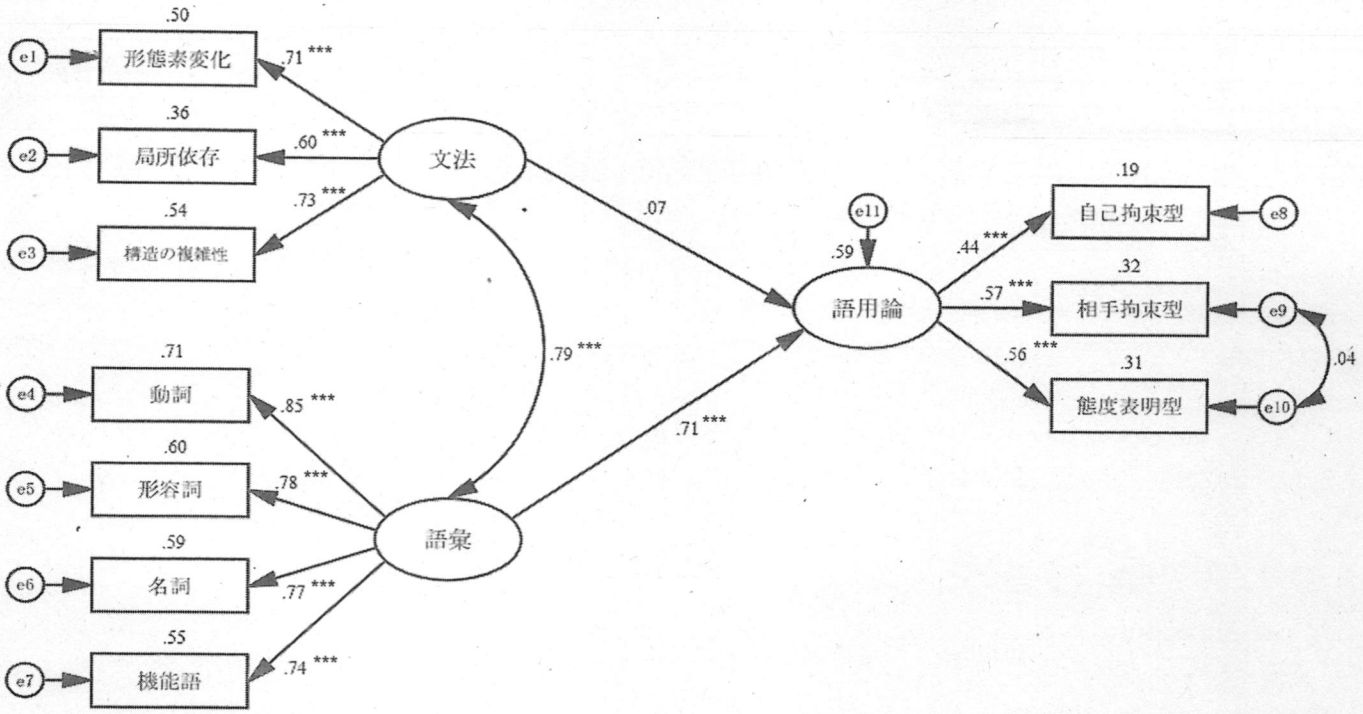

図1. JFLの語用論的能力，文法知識および語彙知識の関係

注：N=224。各変数間の関係を示す推定値は，すべて標準化係数である。各観測変数の上に示す値は，モデル全体に対する重相関係数の平方（R^2）である。

* p<.05．** p<.01．*** p<.001．

は有意ではなかった。また文法知識と語彙知識の間には，高い正の相関関係（r=.79, p<.001）が認められた。文法知識は，語彙知識を介して語用論的能力に影響するという間接効果がうかがわれる。

2. 2. 事後分析――重回帰分析による語用論的能力と品詞別に見た語彙知識の関係

SEMの解析により，JFLの語用論的能力に直接有意な影響を持つのは語彙知識であることが示された。本研究で語彙知識を測定したテストは，品詞別に構成されているものである。そこで，どの品詞に関する知識がより強く語用論的能力に影響しているかをさらに詳しく検討することにした。19項目の語用論的能力のテストの総合得点を従属変数とし，語彙知識の下位カテゴリである動詞，形容詞，名詞，機能語の4種類の得点を独立変数として，強制投入法による重回帰分析を実施した。

分析の結果は表3の通りである。4種類の語彙知識のそれぞれが語用論的能力に有意な影響を持っているかどうかを示している。語用論的能力に対して有意な影響力を持つ品詞は，動詞（β=.23, p<.05）と名詞（β=.20, p<.05）であった。

3. 考察

本研究は，外国語環境における日本語（JFL）の語用論的能力と，それを支える基礎的言語能力との関係を探るために，中国の大学で日本語を専攻する大学生を対象に各種のテストを実施した。得られたデータを構造方程式モデリング（SEM）によって解析した結果，語用論的能力に対して直接有意な影響力を持つのは語彙知識であることが示された。一方，文法知識は，語彙知識との間に有意な相関関係を持

表3. 品詞別に見た語彙知識と語用論的能力との関係

従属変数：語用論的能力　R^2=.245		
独立変数：	β	p
動詞	.23	*
形容詞	.02	*ns*
名詞	.20	*
機能語	.12	*ns*

つものの，語用論的能力に対する有意な影響は認められなかった。したがって，JFLの語用論的能力は，十分な語彙知識に支えられて習得されるものであり，文法知識はその語彙知識の基盤となるものであることが示唆される。

さらにSEMの事後に行った重回帰分析の結果からは，語彙知識のなかでも，動詞と名詞の知識が語用論的能力に有意に影響していること，形容詞と機能語の影響は有意ではないことが示された。相手の意図を理解しそれに適切に応答するといった語用論的能力は，語彙知識のうちの修飾的な要素より，文構造の骨格を成す動詞と名詞の豊かな知識を備えることによって支えられているようである。語用論的能力を，複数の文や発話における命題群の間の関係を把握し，推論や一般化等の操作を経て全体的な意図の理解をする能力であると考えれば，それらの操作の基盤となるひとつひとつの文や発話を正しく理解するために，動詞や名詞の十全な語彙知識は欠かせないものであろう。

JFLの語用論的能力に対して文法知識でなく語彙知識が強い影響力を持っているという結果からは，目標言語である日本語の基本的な構造が理解されその処理方略が獲得されても，語彙知識は継続して習得すべきものであり，到達点がないことが示唆される。実際のコミュニケーションの場における複雑な意図が込められたやりとりを適切に理解し対応するためには，基本的な文法知識を習得した後に，長い時間をかけて広く深い語彙知識を培っていく必要があるといえよう。

これまで，外国語 / 第二言語としての日本語において語用論的能力と基礎的言語知識との影響関係を検討するという試みは，ほとんど行われてこなかった。そのような中で本研究では，JFLの語用論的能力と文法および語彙知識との関係について，SEMの手法によって検討した。今後は，本研究で探索的に使用した語用論的能力を測定するテストをより精度の高いものとなるように修正していくことが求められる。また本研究では，語用論的能力と基礎的言語知識の因果関係を総合的に検討することが目的であったため，個々の発話行為が実現される際の慣習・規範と推論との関係については論じなかった。次の課題として，学習者が慣習に基づいた推論をどのように処理しているかを，より詳細に検討していく必要がある。

文献

生駒知子, 志村明彦(1993). 英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー――「断り」という発話行為について『日本語教育』79, 41-52.

清水崇文 (2009). 『中間言語語用論概論――言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク.

宮岡弥生，酒井弘，玉岡賀津雄 (2006). 『文法テスト』未公刊.

宮岡弥生，玉岡賀津雄，酒井弘 (2011). 日本語語彙テストの開発と信頼性――中国語を母語とする日本語学習者のデータによるテスト評価『広島経済大学研究論集』34(1), 1-18.

山梨正明 (1986). 『発話行為』大修館書店.

ラオハブラナキット，カノックワン (1997). 日本語学習者にみられる「断り」の表現――日本語学習者と比べて『世界の日本語教育』7, 97-112.

Al-Issa, A. (2003). Sociocultural transfer in L2 speech behaviors: Evidence and motivating factors. *International Journal of Intercultural Relations, 27*, 581-601.

Austin, J. L. (1962). *How to do things with words*. Oxford: Clarendon Press.

Beebe, L. M., & Takahashi, T. (1989). Do you have a bag?: Social status and patterned variation in second language acquisition. In S. Gass, C. Madden, D. Preston, & L. Selinker (Eds.), *Variation in second language acquisition (Vol. 1): Discourse and pragmatics* (pp. 103-125). Clevedon, UK: Multilingual Matters.

Blum-Kulka, S., House, J., & Kasper, G. (1989). *Cross-cultural pragmatics: Requests and apologies*. Norwood, NJ: Ablex.

Boxer, D., & Cohen, A. D. (Eds.). (2004). *Studying speaking to inform second language learning*.

Clevedon, UK: Multilingual Matters.

Cohen, A. D. (2008). Teaching and assessing L2 pragmatics: What can we expect from learners? *Language Teaching, 41*, 213-235.

Dixon, J. A., & Marchman, V. A. (2007). Grammar and the lexicon: Developmental ordering in language acquisition. *Child Development, 78*, 190-212.

Hinkel, E. (1997). Appropriateness of advice: DCT and multiple choice data. *Applied Linguistics, 18*, 1-26.

Holtgraves, T. (2002). *Language as social action: Social psychology and language use*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.

Matsumura, S. (2001). Learning the rules for offering advice: A quantitative approach to second language socialization. *Language Learning, 51*, 635-679.

Matsumura, S. (2003). Modeling the relationships among interlanguage pragmatic development, L2 proficiency, and exposure to L2. *Applied Linguistics, 24*, 465-491.

Searle, J. R. (1969). *Speech acts*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

Searle, J. R. (1975). Indirect speech acts. In P. Cole, & J. Morgan (Eds.), *Syntax and semantics 3: Speech acts* (pp. 59-82). New York: Academic Press.

Searle, J. R., & Vanderveken, D. (1985). *Foundations of illocutionary logic*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

Taguchi, N. (2008). Environment in the development of pragmatic comprehension: A comparison of gains between EFL and ESL learners. *Studies in Second Language Acquisition, 30*, 423-452.

Yamashita, S. (1996). *Six measures of JSL pragmatics*. University of Hawaii', Second Language Teaching and curriculum Center.

Yu, M. (2004). Interlinguistic variation and similarity in second language speech act behavior. *The Modern Language Journal, 88*, 102-119.

【付記】『言語教育評価研究』のお二人の査読者に，多くの厳密で意義深いご意見をいただいたことを感謝する。また本研究は，科学研究費補助金・基盤研究B「超級学習者は母語話者と同様に日本語文を処理しているか――行動・脳科学実験による解明」(課題番号23320106，研究代表者：玉岡賀津雄）の助成を受けた。

付録── JFLの語用論的能力を測定するテスト

以下の各項目では，当該の状況で自分が発する発話に最も近い項目を1つだけ選択するように指示した。奇数番号の項目は2発話から成るやりとり，偶数番号の項目は3発話から成るやりとりである。発話行為はいずれも2番目の発話で実現される。被調査者の回答は，奇数番号の項目では2発話目，すなわち発話行為の話し手の立場であり，偶数番号の項目では3発話目，すなわち発話行為の聞き手の立場となる。

日本語母語話者による基準判定テストで最適回答と認められた選択肢にチェックを付けている。(16)，(21)および(22)の項目は，日本語母語話者による基準判定テストで最適回答が1つにならなかったため，分析からは除外した。各項目の状況説明の後のカッコ内に各発話行為名を記しているが，これらは学習者に対して実施した際には示さなかった。また，本テスト内に中国にいる日本語学習者にとって理解しがたいと予想される表現には，注釈を付けて実施した(* が付いている部分)。

1) 会社の先輩とお昼ご飯を食べて，会社に戻る途中 (約束)

【先輩】

あ，ここに新しいレストランができるんだね。オープンしたら一緒に食べに行こうね。

【あなたは，先輩に同意しようと思います。何と言いますか。】

- ☐ a: ええ，ぜひご一緒させてください。どんなお店なのか楽しみですね。
- ☑ b: はい，了解です。食べに行きます。
- ☐ c: そうですね。二人の都合があったら行ってみてもいいですね。
- ☐ d: おいしいレストランなら行ってもいいですよ。

2) 3回続けて宿題をやってくるのを忘れたことを先生に告げる (侵害)

【あなた】

すみません，また宿題を忘れてしまいました。

【先生】

また忘れたんですか？基本的なことをきちんとやらない人は，授業に出てきてもらう必要はないんですけどね。

【あなた：何と答えますか。】

- ☑ a: 本当に申し訳ありません。これからはきちんとやりますので。
- ☐ b: 朝忙しかったので，持ってくるのを忘れたんです。
- ☐ c: え，授業休んでもいいですか？
- ☐ d: 私，授業に登録してありますよ。

3) 会社の同僚から依頼を受ける (受諾)

【同僚】

今度の会議であなたに司会をお願いしたいんですけど，いかがでしょうか。あなたがやってくださるといつも上手くいくので，皆あなたにやってもらいたいって言ってるんですよ。

【あなたは，この依頼を引き受けようと思っています。何と言いますか。】

- ☑ a: うまくできるかどうか自信ありませんが，私でよければ，ぜひやらせていただきます。
- ☐ b: はい，お引き受けいたします。
- ☐ c: ああ，そんなこと簡単ですよ。いつでもやりますよ。
- ☐ d: はい，私はそういうの得意ですから，やって差し上げますよ。

4) 同じクラスの友達を飲みに誘う (断り)

【あなた】
今日暇だったら久しぶりに飲みに行かない？
【友達】
あー…，今日ちょっと宿題が終わりそうにないんだ。また今度行こうよ。
【あなた：何と答えますか。】
☐ a: 分かった。宿題がんばってね。
☐ b: うん。じゃあ明日絶対行こうね。
☑ c: そんなのどうでもいいじゃん*。宿題終わるの待ってるからその後行こうよ。
☐ d: どんなお店にする?おいしいワインがたくさんあるところ知ってるんだけど。

5) 会社の先輩から相談を受ける (申し出)
【先輩】
最近高橋さんに話しかけても冷たいような気がするんだけど，嫌われちゃった*のかなあ。この前ちょっと余計なことを聞いちゃった*みたいで，それで気分を悪くしちゃったのかもしれないんだ。

【あなたは，先輩の心配を軽くしてあげたいと思います。何と言いますか。】
☐ a: そんなことないんじゃないですか？私はそんなふうに感じないですけどね。
☐ b: 高橋さんはそんなこと気にする人じゃありません。
☑ c: そんなことないですよ。私が言うんだから大丈夫！
☐ d: 気にしすぎですよ。あまり気を遣いすぎると早く老け込み*ますよ。

6) 職場の同僚同士で雑談をしている (保証)
【あなた】
来週の送別会の幹事を誰かにやってもらわないといけないですね。でもみんな忙しくてそんな暇なさそうですよね。
【同僚】
そうですね。他に誰もいないようなら，私がやってもいいですけど…。
【あなた：何と答えますか。】
☐ a: そうですか？無理じゃないならお願いできると助かりますけど，本当に大丈夫ですか？
☐ b: じゃあ，しっかりやってくださいね。お願いしますよ。
☐ c: あなたに幹事の仕事できますか？いいお店選べるんですか？
☑ d: 他に誰か探してみてくれるんですか？

7) 使わなくなったパソコンを知人に安く譲ってあげる相談をしている (契約)
【知人】
どのくらいお支払いすればよろしいでしょうか。
【あなたは，パソコンをケースとともに5万円で譲りたいと思います。何と言いますか。】
☐ a: まあ5万くらいってことでどうでしょうかね…。パソコンのケースもお付けしますから。
☐ b: 5万円になります。パソコンのケースもご一緒にどうぞ。
☐ c: 5万円いただけますか。パソコンのケースも差し上げますよ。
☑ d: 5万円払ってください。パソコンのケースも付けてあげます。

8) 同じ学科の友達と会う (依頼)
【あなた】
どうしたの？なんか慌ててる感じだね。
【友達】
明日の朝8時から臨時の通訳のバイトをやる予定だったんだけど，急に別の仕事が入っちゃったの。○○ちゃん（＝あなた）明日行くの大変だよね…？
【あなた：何と答えますか。】
☑ a: あー，私も明日は用事が入っちゃってるんだよね～。通訳のバイトやりたいんだけど，本当にごめんね。
☐ b: 明日は無理です。別の人にお願いしていただけますか？

☐　c:　何で私がそんなに朝早くに行かなきゃいけないの？
☐　d:　じゃあその仕事断ればいいんじゃない？

9) 会社の後輩から相談を受ける (許可)
【後輩】
申し訳ないんですが，ちょっと自分の机の上に荷物がたくさんあって仕事できる状況じゃないんですよ。これから残業して徹夜になりそうなんですけど，〇〇さん（＝あなた）の机を使ってもよろしいでしょうか。

【あなたも自分の机に書類をたくさん置いているので使ってほしくないが，しかたなく受けることにします。何と言いますか。】

☑　a:　そうですね。まあいいですよ。
☐　b:　私も忙しくて机にもけっこう大事なもの置いてあるんですけどね。でも仕方ないから貸してあげますよ。
☐　c:　いいけど，できるだけ早く返してくださいね。
☐　d:　よくそんな図々しいことが言えますね。まあよっぽど困ってるみたいだから今回は使わせてあげるけど，これからは困りますよ。

10) 職場の上司と仕事をしている (命令)
【あなた】
この仕事今日中に終わらないと思うんですけど、明日までにやればいいでしょうか。
【上司】
周りに迷惑をかけることになるので、今日中にやってもらえないと困るんですけど。この前もそうでした
【あなた：何と答えますか。】

☑　a:　申し訳ありません。この前も私のせいで遅れてしまいましたよね。今日やります。
☐　b:　でも私は完璧主義なので、そんなに早くはできないんですけど。
☐　c:　どうしても今日中でなければいけないなら、別の人にお願いすればいいんじゃないで
☐　d:　どうして私がそこまでやる必要があるんですか?

11) 職場の同僚の佐藤さんと雑談をしている (助言)
【同僚：佐藤さん】
なんだか昨日からだるくて，今日も朝から熱があるんですよ。風邪引いちゃったのかなあ。
【あなたは，その同僚が心配で，早く帰ったほうがいいと思っています。何と言いますか。】

☑　a:　えー，大丈夫ですか？ひどくならないように，今日は早退したほうがいいんじゃないですか？
☐　b:　熱があるのによく出勤しましたね。佐藤さんは本当に仕事熱心ですよね。でも今日は絶対早退しなきゃ*だめですよ。
☐　c:　風邪を軽く考えちゃ*いけませんよ。今日は帰って薬を飲んで寝て，明日の朝早く病院に行くのがいいですね。普段からちゃんと栄養をとらないからそういうことになるんですよ。
☐　d:　風邪が他の人に移ったら迷惑ですし，早く帰らないと。

12) 知人の家で夕食をご馳走になり、後片付けを手伝っている。燃えるゴミをまとめた後で (禁止)
【あなた】
この辺にまとめたゴミは、このゴミ箱に捨てておきますね。
【知人】
あ、すみません…。燃えるゴミと燃えないゴミが混ざってるかもしれないですね。
【あなた：何と答えますか。】

☐　a:　じゃあ中身を見て確認しますね。
☐　b:　そんなに心配しなくても大丈夫ですよ。大体分けてありますから。
☐　c:　だったらご自分で分別してくださいよ。
☑　d:　人に手伝ってもらってるんだから、あんまり細かいこと言わないでください。

13) 知人と雑談をしている (慰め)

【知人】

昨日運転してて，帰り道で追突*されちゃったんですよ。怪我はしなかったんだけど，買ったばかりの新車がへこんじゃって*，もうショックで…。

【あなたは，相手の災難に同情します。何と言いますか。】

☑ a: えー，災難でしたね。でも怪我がなくてよかったですね。
☐ b: 車がへこむくらいたいしたことないですよ。あまり気になさらずに*。
☐ c: そうですか。これからはそういうことのないように気をつけたほうがいいですね。
☐ d: えー，それ修理代払うの大変でしょうね。きっと相当かかりますよ。

14) 偶然、道で知人に会った。その人は、先週あなたの家のパーティーで手伝いをしてくれた (謝罪)

【あなた】

あ、こんにちは。この前のパーティーでは本当にお世話になりました。〇〇さん(＝あなた)がいろいろ手伝ってくださったおかげでお客さんもみんな大喜びだったんですよ。

【知人】

こちらこそ、先日はお世話になりました。お手伝いするつもりで伺ったのに、お皿を割ってしまってご迷惑おかけして、かえって申し訳ありませんでした。

【あなた:何と答えますか。】

☐ a: ああ、そんなこと全然。今度お礼にまたご招待しますので、ぜひいらしてくださいね。
☐ b: 誰でもあれぐらいの失敗をすることもありますよ。あまり気になさらないほうがいいです
☐ c: そうですね。あの時は大きな音がしたからみんなびっくりしてましどね。(笑う)
☑ d: 今度手伝っていただくときには、あまり割らないように気をつけていただけると嬉しいで

15) 会社の同期入社の鈴木さんと雑談している (自慢)

【同期:鈴木さん】

この会社の安月給*じゃほんとに生活苦しいよね。どうにかならないかなあ。

【あなたは，来月から昇進して給料が上がることが決まっています。この同期の人は，いつも自慢ばかりする人なので，あなたも，自分が相手より良い地位を得ることを自慢したいと思います。何と言いますか。】

☑ a: 私，来月から昇進することになって，お給料もちょっとだけ上がるかもしれないんだ。
☐ b: ごめんね。私だけ来月からお給料上がることになったの。鈴木さんは大変だろうけどがんばってね。
☐ c: 私は来月からお給料上がるの。うらやましいでしょう。あなたは何でまだ上がらない
☐ d: 私は来月からお給料が上がることが決まってるんですよ。いいことがあるのはあなただけじゃないんですよ。

16) 先日食事をご馳走した知人と会う (感謝・分析から除外)

【あなた】

あ、こんにちは。いいお天気になりましたね。

【知人】

ああ、どうも。先日はたくさんごちそうになってしまって申し訳ありませんでした。

【あなた:何と答えますか。】

☐ a: いえいえ、あれぐらいのことで。お口に合ったかどうか…。
☑ b: また今度ごちそうしますよ。
☑ c: いつもお世話になっていますし、あれが私のできる限りのことです。
☐ d: あー、そんなに何回も謝らなくていいですよ。お気になさらないでください。

17) 知人に貸した雑誌を返されるとき (抗議)

【知人】

この前借りた雑誌持ってきたんですけど，汚しちゃったんです。申し訳ありませんでした。

【この雑誌は，友人の記事が掲載されているので，この先も保存しておくつもりの気に入っている雑誌でした。できれば弁償してほしいと思っています。何と言いますか。】

☐ a: えー，気に入ってる写真が載ってるんですけど…。ずっと保存しておくつもりだったのに。
☑ b: この雑誌まだ本屋さんで売ってると思うので，新しいの買って返していただけませんか？
☐ c: この雑誌気に入ってたので，だったらまた買わなきゃいけなくなるなあ…。
☐ d: 汚した雑誌をそのまま返すなんてどういう神経してるんですか？

18) 待ち合わせの約束を破った知人に対して（不平）

【あなた】
昨日みんな1時間以上待ってたんですけどね…。

【知人】
時間通りに行けるはずだったんですけど、家出るとき急に子供が怪我しちゃって、病院に連れて行かなきゃならなくて、子供のことで頭いっぱいになって他のこと忘れちゃったんです。

【あなた：何と答えますか。】

☐ a: そうだったんですか。お子さんはもう大丈夫ですか？
☐ b: それなら仕方ないですけど、みんなかなり怒ってたみたいでしたよ。
☐ c: 電話する時間くらいあったんじゃないでしょうかね…。
☑ d: 本当ですか？言い訳してるだけじゃないんですか。

19) 会社の同僚の加藤さんと一緒に昼食を食べている（賛美）

【同僚：加藤さん】
今日のお弁当は昨日の残り物ばっかりなんですよー。

【あなたは，その同僚が毎日お弁当を作っていることを知っていて，その毎日の努力をほめたいと思います。何と言いますか。】

☑ a: 毎日おいしそうなお弁当を作ってきて，本当に偉いですね。私も作ったことあったんですけど3日しか続かなかったんですよ。
☐ b: 毎日お弁当を作るなんて，本当に尊敬します。そんなに料理が好きなんですか？
☐ c: 加藤さんは毎日お弁当を作ってきてすごいですね。私は毎日外食ですよ。どうしても栄養が偏るけど，まあおいしいからいいかなと思って…。
☐ d: 毎日お弁当を作ってきて立派ですね。毎日作ったら苦しい家計も助かりますよね。

20) 会社の後輩と電車で偶然会って、一緒に出勤する途中（褒め・分析からは除外）

【あなた】
なんか今日の服、太って見えるような気がするんですよね。嫌だなあ。

【後輩】
ええー？、全然～。それ新しいセーターですね。よくお似合いですよ。いつも素敵な服ばかり着てらっしゃいますね。

【あなた：何と答えますか。】

☐ a: えー、そうですか…？
☑ b: そんなことないです。お恥ずかしいです。
☑ c: ええ、みんながそう言ってくれるんですよ。
☐ d: はい、洋服のセンスには自信あるんですよ。

21) 用事があって知人があなたの家を訪ねる。玄関先で（挨拶・分析からは除外）

【知人】
こんにちは。渡辺です。

【あなたが家に来た知人を迎えるとき，最初に何と言いますか。】

☐ a: わざわざ来ていただいてすみません。どうぞお上がりください。
☑ b: いらっしゃいませ。ようこそいらっしゃいました。
☑ c: お目にかかれて嬉しいです。どうぞどうぞ。
☐ d: あ，○○さん。入って入って。

22) 同じ学科の先輩と話している (遺憾)

【あなた】

昨日の試験合格してるかなあ。発表までドキドキして眠れないんですよ。

【先輩】

なんか、田中先生からちょっと聞いただけだからよく分からないんだけど、今回の試験かなり競争率高かったらしくて…まだ確定ではないらしいんだけど、今回は残念だけど…。(沈黙)

【あなた:何と答えますか。】

- ☐ a: ああ、私ダメだったんですね…。
- ☐ b: それって私は不合格だってことですか？
- ☑ c: え？何ですか？その後の話をはっきり教えてください。
- ☐ d: 明日の発表まで安心できませんね。